



～文化の風が吹くまち ちくしの～

文化薫道



◆其の七十四

ふじかいち 二日市というところ

市内の北側に位置する二日市には、江戸時代に二日市宿が置かれ、日田から博多までをつなぐ交通と物流を担う日田街道が通っていることが知られています。二日市宿は拠点となり、現在の二日市の発展を支えるものとなっています。では、発展の中心地となった二日市の歴史を探ってみましょう。

二日市宿が所在する場所は、古代の九州の中心として栄えた大宰府条坊(街区)の最南端と重なっています。また、発掘調査で古代の遺跡がJR二日市駅付近まで広がる事が分かっており、条坊より外の土地まで利用されていたことを示しています。

「二日市」という名称は、文明11(1479)年、中世の大宰府で活躍していた少弐(しょうに)氏が筑紫氏に宛てた文書に現れるこ



古代から近世の二日市宿周辺

とから、その名称が中世には定着していることがうかがえます。また、江戸時代の二日市周辺の記録を書いた古文書「二日市宿庄屋覚書(しょうやおぼえがき)」にも、古来から市が立ち並んでいたという記述が見られます。古くから市場としてにぎわい、それが二日市の地名の由来になっていることを想起させます。

二日市は、古代からの「地の利」という基礎の上に人が集い、歴史が重なることで市の中心地として栄えてきたのです。

図文化財課



筑紫野市フェイスブック

<https://www.facebook.com/ChikushinoCity/>



筑紫野市ツイッター

<https://twitter.com/ChikushinoCity/>



筑紫野市LINE公式アカウント

<https://lin.ee/6X9wMoy>